



とうふう 東風

矢巾町立矢巾東小学校
校報 20号
H27.12.24
文責 校長 菅原

2学期終業式

終業式の言葉です。

長い2学期が終わろうとしています。

終業式は学期の最後の学習です。次につなげる大事な節目の勉強です。

生活科探検、社会科見学、町の音楽会、お米の学習（収穫祭）、水泳記録会、陸上記録会、学習発表会、被災地見学学習、委員会、児童会の日々の活動、日々の清掃、当番・係り活動、子ども会行事、PTA行事。そして、挨拶・返事の中で鍛えた姿勢が2学期と3学期を繋ぐ大切な節づくりとなります。

姿勢という言葉があります。聞きなれた言葉かもしれませんが、「勢いのある姿」と書きます。

勢いというのは、「気」です。空気の気、元気の気、根気の気、やる気の気。これら全て目に見えないものですが、体を通して目に見えるようになっています。声や目、体の動き等、特に姿勢に表れてきます。

一人一人の目に見えない心の状態が姿勢に表れるのです。ですから、2学期のがんばりの様子が、皆さんのその姿勢に表れるのです。このように心と体は繋がっています。心と体が繋がっていますから、逆に姿勢を良くすると心もそのようになります。

さて、いよいよ明日から冬休みに入ります。

いつもお世話になっているスクールカウンセラーの阿部先生が、こんなことをお話くださいました。

「体はいろんな記憶と繋がっています。スマホやゲームを猫背で長時間やると“うつ”という心の病気になるんです。気分が落ち込んだときの姿勢がスマホやゲームをしているときの姿勢そのものなんです。」 阿部カウンセラーより

冬休みの期間、ゲームをやりすぎると、その姿勢が心の病気（依存症など）を引き起こしてしまうかもしれません。心の病気になるだけでなく、せっかく1学期・2学期に学習したことを忘れてしまうことにもなります。

それよりも、外に出て元気に体を動かすこと

のほうが心にも頭にもずっといいです。縄跳び10分、雪かき30分、ラジオ体操…。自分で工夫して体を動かすことに心掛けていきましょう。

さあ、腰骨を立てる「立腰」の姿勢でこの終業式をしめくります。そしてその心と姿をみんなで確かめ合い、新しい年へと繋げて参りましょう。



最後に、登校途中、ゴミを拾ってくれた皆さん。

皆さんのお陰で、歩道がとても綺麗です。いつも通う道が綺麗だと事故も怪我也少なくなります。皆さんの心が地域を明るく安全な街にしています。3学期、今度は校舎の中のごみ拾いができるお友達が増えることを願っています。

「学び合おう 礼節を重んじ 姿勢良く」

2学期、545名の矢巾東小学校の児童の皆さんの頑張りに大きな拍手を送ります。

3学期、元気にまた会いましょう。



ありがとうございました!



2学期、保護者、地域の皆様には、多大なご支援ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。新しい年を迎えるに当たり、御礼のご挨拶といたします。本当に有難うございました。良いお年をお迎え下さい。

学び合おう

礼節を重んじ 姿勢よく

発表会・コンクール等参加者・入賞者

第34回 紫波郡児童生徒 生活科・理科研究発表会

2015. 11. 25 紫波町役場

3年 〇〇 〇〇 色のふしぎ

3年 〇〇 〇〇 たまごのかたまり方調べ

5年 〇〇 〇〇 花粉はどんな形をしているの？

5年 〇〇 〇〇 重曹で手作り洗剤

6年 〇〇 〇〇 虹について

6年 〇〇 〇〇 テープのね



冬休みは
1月17日まで。
始業式は
1月18日(月)
です。

第67回 紫波郡児童・生徒独唱大会

2015. 11. 21 田園ホー儿

優秀賞 5年 ○○ ○○

「涙そうそう」

伴奏 齋藤真希恵先生

優良賞 5年 ○○○ ○○

「ぼくらの未来」

伴奏 5 年 ○○ ○○

優良賞 6年 ○○○ ○○

「栄光の架橋」

伴奏 ○○ ○○

青少年読書感想文コンクール

優良賞 1年 〇〇 〇〇

3 年 ○○ ○○

6年 ○○ ○○

入 選 2 年 ○○ ○ ○○ ○○○

○○ ○○

3 年 ○○ ○○

4 年 ○○ ○○

○○ ○○

5年 ○○ ○○

○○ ○○

6年 ○○ ○○

いよいよ冬休みです
長期休業こそ「我慢」の
クリスマスプレゼントを

「愛する人が同じように自分を愛してくれないから」「人生が自分の思うようにならないから」。信じられないような、大人のキレた行動からの事件を耳にすることが増えました。「キレル」とは、理性が効かなくなってしまう状態のことです。◆通常、キレルといえは、幼い子どもたちが思い浮かびます。「玩具を貸してくれなかったから、友だちを叩いた」「友だちとのゲームで負けてついゲーム機をひっくり返した」など、思うようにならない時に「攻撃」もしくは「逃避」する行動は、幼児的かつ原始的（動物的）な反応パターンです。人はその幼児的反応パターンを、生活の中で徐々に違う反応パターンへと変化させながら大人へと成長していきます。◆しかし、なぜ、現代は「キレル大人」が増えてきたのか？その原因の大きな一つに「生活の便利さ」があると感じています。昔は、「暑くても扇風機しかない」「夜中にお腹が空いてもお店は開いてない」「恋人と話したくても電話機は、父親が居座る居間に一台しかない」。このような状況でした。◆それが今や、暑くなればクーラーがあり、夜中でもコンビニに行けば欲しいものが手に入り、また、連絡はいつでも携帯電話でできます。さらには、相手がいづれ既読したかもわかります。もちろん、このような生活は便利で快適です。しかし、その反面、社会に出て必要な我慢や忍耐を手に入れる機会を失ったように思えます。この我慢や忍耐がキレルパターンから卒業する基礎になります。

我慢・忍耐を必要とする場面を意識してプレゼント

親は我が子を決して「キレやすい大人へ育てたい」と思っていないはず。◆そのためには、このような便利な世の中だからこそ、我が子へ我慢・忍耐を必要とする場面を意識してプレゼントしてあげることが必要です。こう言うとき、「厳しい躰（しつけ）」や「スポーツを無理やりさせる」といったことを考えがちですが、そういった手法だけではありません。「動植物を最後まで育てさせる」や「家事を一つ任せ全うさせる」、「家族の約束事を親子で守り続ける」なども忍耐・我慢の学びにつながります。◆愛する我が子の我慢する顔、耐える姿を見るのは忍びないですが、幼い間は親が側にいて助けてあげることができて、いつの日か、その子は一人で社会の中で耐えていかなければいけません。なにか苦難に遭った時、キレて逃げる大人にするのか？それとも、辛いことにも耐えて笑顔で乗り切れる大人にするのか？親も子どもと一緒に少しだけ辛抱して、子どもの心に我慢や忍耐を育てあげましょう。